

オフショア開発に効果を発揮する『Ninja-VA』と教育コンテンツ

世界で事業を推進するNECでは、数多くの生産拠点、開発拠点を海外に展開している。そうした中で、NEC Telecom Software Philippinesはフィリピンのセブ市とマニラ市でソフトウェアの開発を行っている。特にセブ本社では、Javaを中心とした開発案件のQCD向上を目的として『Ninja-VA』フレームワークを採用。合わせてアクロスゲートグローバルソフトウェアの協力により技術者教育プログラムを強化し、全方位からオフショア開発のベストプラクティスを追求している。

オフショアの開発案件でもJavaの需要が増加

今回、NEC Telecom Software Philippines (以下、NSP) がNinja-VAのフレームワークを採用した経緯について、同社のCebu Main Office Design Engineering Department Manager 辻川 公章氏は次のように語る。

「ここ数年でJavaの需要は上昇しており、今後も重要な開発言語として普及が見込まれるため、Javaの開発フレームワーク構築による、生産性と品質の確保が急務となっていました。そうした中で、テナートニさんのNinja-VAを評価する機

会に巡り会いました。弊社での評価の結果、操作性がシンプルであることや英語版の対応など、海外でのソフト開発でも非常に高い適性を備えていることが確認でき、これならば製品の開発に適用できると判断しました。」

日本を含めた海外からの開発案件を、その国以外で対応するオフショア開発は、人件費や設備投資などのコストを削減できるため、価格競争力の高いビジネスとなる。その反面、開発を行う国ごとの文化や教育の違いによって、日本の顧客が求めるだけの品質や生産性を達成できない場合もある。そのためオフショア開発では、開発案件に対する品質

と生産性向上の仕組み作りが、何よりも重要なテーマとなっている。この課題を解決するために、辻川氏はNinja-VAに注目したのだが、他にも重要な取り組みがあった。品質管理、ブリッジSEの投入と育成、社内教育を含めた総合的なQCDフレームワークの構築である。

「オフショア開発では、品質や生産性だけでなく、頑強な品質管理の仕組みが必要です。また、日本からの要望やソフトウェア要件を開発現場に正確に伝えて実現する、ブリッジSEの存在が重要です。そして全ての基盤として社内教育があります」と辻川氏は語る。

日本と海外を結ぶブリッジSEの重要性

アクロスゲートグローバルソフトウェア(以下、AXG)は、ソフトウェア/エンベデッドのオフショア開発に特化したソリューションを提供する、ハイスループット開発支援企業だ。代表取締役でブリッジSEでもある三好和明氏は、次のように語る。

「われわれは、日本のSIerとオフショア開発拠点の間に入って、プロジェクト管理や品質管理を行っています。そしてオフショア開発では、フレームワークによる品質保証が重要な課題となっています。これまでは、Javaの環境に適したフレームワークが存在していなかったのですが、Ninja-VAというフレームワークを海外から発信していくことで、最終的にはアジアの他の国々やインドなどにも展開することが可能になると考えています。」

オフショア開発を成功に導くためには、人材/ノウハウ/フレームワーク、そしてオフショア工数の安定確保など、さまざまなキーファクタが存在するという。AXGではこうした課題を解決するために、Ninja-VAというフレームワークだけではなく、テナートニの教育ノウハウにも注目している。

「テナートニさんには、開発フレームワークだけではなく、優れた教育のノウハウがあります。そのノウハウをわれわれが海外に伝えられるようにすれば、効率のよい投資で技術レベルの向上と生産性の効率化を実現できると思っています。また、そうしたフレームワークをいち早く作ることで、先駆者利益を確保し、優位性を確立することができます。ただ安いだけとか、使えるというだけではなく、品質、コスト、そして納期、即ちQCDを管理、保証していけるようなオフショア開発の仕組みを作っていかなければならないのです」と三好氏は語る。

フレームワークと教育のセットでオフショア開発を支える

テナートニでは、以前から顧客がNinja-VAの導入をスムーズに行えるようにするため、充実した教育サービスをサポートの一環として行ってきた。AXGではその教育ノウハウを翻訳し、NSPのエンジニアに対して実施し、なおかつ、そこで得られた

コンテンツや経験を、その他のオフショア案件にも展開していく考えた。すでにプロジェクト管理やQCD管理に関しては、AXGとNSPで管理システムの開発に取り組んでいる。

「海外で流通している教育向けのコンテンツをそのまま採用してしまうと、日本のソフト開発文化や開発手法と合わない部分が多数あります。また欧米流の開発手法や文化をベースにしたコンテンツは圧倒的に多いのですが、われわれはメイドインジャパンのコンテンツにこだわります。なぜなら、われわれの目的はあくまで日本のNECに貢献できるソフトウェア技術者を育成することだからです。だからこそ、日本側の考え方と日本の開発文化を基礎にした教育コンテンツがどうしても必要なのです」と辻川氏は三社による取り組みの重要性について語る。

三社の協業では、フレームワークと教育コンテンツの提供をテナートニが担当し、そのコンテンツの翻訳やオフショア先での教育実施はAXGが担当、そして実際のオフショア開発における効果測定とフィードバックがNSPの役割となった。

「QCDのフレームワークと教育は、切っても切れない関係にあります。オフショア開発の現場では、プロジェクトマネージャーだけが優れた技能を備えていても、個々のエンジニアのレベルが低ければプロジェクトでは成果を出せません。反対にエンジニアのスキルが高くても、マネジメントがしっかりしていなければプロジェクトは失敗します。そのため、一口に教育といっても、誰にどのような教育をすれば効果があるのか、教育を行うためのスキルレベルの測定が個別に必要になります。ベンチマークを行い個人のウィークポイントを見つけ出し、それを補正するような教育を行えば、全体でのレベル向上が可能になります。それがQCD管理システム

と教育を融合させたオフショア向けのフレームワークであり、われわれの目指しているゴールです」と三好氏は目標を語る。

テスト、開発、品質管理システム、そして教育を含めて、AXGではオフショア・ソリューションを提供していく考えた。

「オフショア開発では、仕事のやり方の質を上げることが重要だと思っ



NEC Telecom Software Philippines, Inc. Cebu Main Office Design Engineering Department Manager 辻川 公章氏

ています。今後も海外への発注は増え続けると思いますが、海外のエンジニアが増えれば増えるほど、個人毎のスキルの低下やばらつきも出てくるでしょう。そこを補正していけないと、QCDの維持向上は困難になります。この問題を未然に防ぐためには、何らかの手立てが必要です。この三社協業によるオフショアソリューションの完成は、今後のオフショア開発発展の大きな鍵を握っているのです」と辻川氏は、オフショア・ソリューションの重要性について語る。

テナートニの開発生産性や品質管理に貢献するNinja-VAフレームワークと教育サービス。海外との橋渡しを行うブリッジSEの経験やノウハウを形にする、AXGのオフショア・ソリューション。その成果を実践するNSPの開発現場。これら三社の協業体制は、オフショア開発の新しいモデルとして、発展を続けていく。

NEC

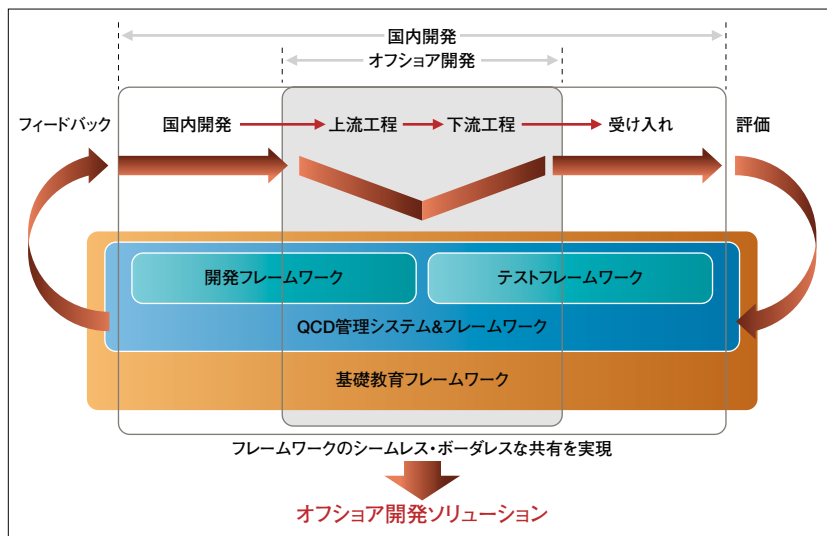
◎会社概要
社名: NECテレコムソフトウェアフィリピン(NSP)
英語表記: NEC Telecom Software Philippines Inc.
操業開始: 2000/2/1 (Cebu Main Office), 2001/10/30 (Manila Branch)
事業内容: Java/Linux分野に限らず、C/C++から組み込み系ソフトウェアまで幅広い技術エリアをカバーし、NECのソフトウェア開発に貢献している。

ACROSSGATE GLOBAL SOFTWARE

◎会社概要
社名: アクロスゲートグローバルソフトウェア株式会社
英語表記: AcrossGate Global Software Inc.
設立: 2004年7月
本社: 東京都葛飾区亀有2-59-7
事業内容: オフショア開発支援(ブリッジSE事業)、受託開発(ソフトウェア・ータルソリューション)、コンサルティング、教育トレーニング
URL: <http://www.acrossgate.com/>



アクロスゲートグローバルソフトウェア株式会社 代表取締役 ブリッジSE 三好 和明氏



Java構築事例

導入システム

ビジュアルWebシステム構築
開発フレームワーク
Ninja-VA
教育・トレーニングシステム